

じっはスゴイ!?

「リハビリテーション室」

特集

宇治おうばく病院のリハビリテーション室には、理学療法士7人、作業療法士3人が常駐し、患者さんに対するリハビリテーションを行っています。じっは、精神科病院に身体リハ部門があること自体珍しいとか。所属スタッフ3人に、仕事の中身とそのやりがい、身体リハの役割などについて伺いました。



瀬野真美花 (せの まみか) 作業療法士 藤原英行 (ふじわら ひでゆき) 作業療法士 四方公康 (しかた きみやす) 理学療法士

精神科には珍しい身体リハ部門

Q おうばく病院には「精神科作業療法室（OT・リボーン）」と「リハビリテーション室」がありますね。両方とも作業療法士が関わるので、外から見ると違いがわかりにくいのですが……。

藤原 作業療法室では、精神科領域の作業療法を行っています。精神疾患は脳機能が適切に働いていない状態なので、適切な状態に戻すための作業療法です。それに対して、リハビリテーション室で私どもが行っているのは身体に対するリハビリです。同じように精神科で働いている作業療法士でも、扱う領域が違うのです。

Q 精神科病院に、なぜ身体リハが必要なのでしょう？

藤原 精神疾患が悪化すると、入院治療を行っている間に身体機能や日常生活動作能力が大幅に低下してしまうことがあります。たとえば、一人で食事をしたり入浴したり、トイレに行ったりすることさえできなくなるケースもあるのです。そうすると、せっかく精神面が回復しても、「この状態ではとても退院させられない」という話になってしまふ。そうしたことを防いで、退院後もスムーズに生活できるようにするために、入院中の身体リハが必要なのです。

四方 また、長期入院をすると、閉鎖病棟の場合とはくに顕著ですが、患者さんの活動量は大きく下がります。長期入院になればなるほど、退院後の生活は困難になりやすいのです。身体リハは長期入院患者の能力維持のためにも重要です。